

# 柳全さんには井戸がない

今坂柳二

おらがの隣りは柳全坊さまの家だな。ん？柳全さんを知らんちゅうのかい、あの人はな、ただの人じゃねえぞ。知りたくばお墓を拜んできなさるといい、なに、ドデカイ石がおっ立っておるからすぐ分かるさ。それで分からんちゅうなら、大きな字だ、読んでみなさるがいい、こう書いてあるはづじゃ。

なまのこんたいそうほういんりゅうぜんのはか  
「前権大僧都法印柳全墓」

「柳全」とあるじゃろ、周りを見回してみさっしやれ、「柳」の文字が入っておる。昔からこの地は柳が一杯生えておって、蛍の頃には目がくらむほど明るくなるんじゃよ。んで、柳全さんにしろわしらの草家くさけにしる、この辺りにお出向きの時は、こう言っておくと仕事早い、いや、草も深いし闇も深い所だもんでな。「リューゼンサンチャアー ドーヨー」「イーマーチットサーキョー」昔は玄関のベルがなかったしインターホンもくっついてなかったんでな。

ところで、柳全さんは修験者でした、んで、さまざまな修行を積んだらしい。祈禱をし、山の木皮を煎じ、木の実を搗りつぶし、ハチの子を焼き、こねくり、寺子屋で子供に筆の持ちようを伝授し、ニイチテンサクノゴ\*、またニシンガイツシン\*。病人がおれば脇差を腰にして、野道、山道をいといません。

大事なことを話し忘れておりました。先ほどお教えいたした案内の言葉を柳沢の谷戸に向けて、元気よく送り込んでみていただきたい。

折角ですから、もう一声二声、柳全さんの修験者の暮らしにかかわってお伝えしましょう。当地には柳全さんだけではなく、数戸、きびしい修験、これは山伏とも言ってお岳宗教を伝えてきた家々が柳全家以下数戸残っておりましてな。どの家も明治期を節目に帰農しましたが、遺物として柳全宅にはヤゲン、小計り、灯明皿、一三三の教本があったそうです。驚いたことに天然痘の手術もしたらしい。ホーソーの種を毎朝植えに来た人がおったとやら・・・

不思議なことがまだある。この家には昭和になった後まで井戸が無かったんです。どうして飯を炊いたか？誰が考えても分からなかった。柳全さん、こうしてたんじゃありませんか。ここは有名な柳沢バケ、石を一個外すと、水があふれ出ます。手桶をさげて裏へ行き、竹ヤブの石を一つ外すと・・・そうなんだよ、水がドクドク、ブクブク。どうもそんな気がいたしますんで。

註\* 旧式そろばんの割算九九の覚え方

いまさか りゅうじ

狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

## 編集後記

市民芸術祭が無事終り、ほっとした間もなく会報の編集になりました。今年には実行委員長に文化人の水村 昭さん(彫刻・絵画)が就任、展示や舞台も見応えのある内容で、特に「和太鼓」は想像以上の見事な迫力で感動しました。今年特に感じたのは各担当(殆ど女性)の頑張りで、文団連の底力を垣間見ました。

「桜まつり」は4月6日(土) 7日(日)で、出演団体もきまり、待機中ですが、昨今の暖かさで開花が早まりそうで、心配です。

(高沢正夫)